

「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」

～森林ボランティア実施～

三重県と奈良県に跨がる大台ヶ原・大杉谷は、かつては、近畿地方では数少ない亜高山帯針葉樹であるトウヒなどの針葉樹が鬱蒼とし、林床はコケに覆われていました。

しかし、昭和30年代の伊勢湾台風等による樹木の風倒、ニホンジカの個体数増加、公園利用者の増加といった複合的な要因により、現在は、森林の衰退が進み、トウヒ林は少なくなり、ミヤコザサのササ原に枯木や倒木が点在する風景が広がっています。

このため、近畿地方環境事務所と三重森林管理署では、かつてあった豊かな動植物からなる質の高い森林を再生するために様々な取組を行っています。

その取組の一つとして、剥皮防止用のネット取付けがあります。これは、ニホンジカによる皮剥ぎに弱いトウヒやモミの立ち枯れを防ぐ効果があります。

三重森林管理署では、ニホンジカ被害の実態と樹木保護の重要性を多くの皆さんに知ってもらうため、平成12年度から「宮川源流部・大杉谷の「木々とシカとの共生」を求めて」をテーマにボランティアによる樹木保護活動を実施しています。

そのような中、昨年、「山の日」が制定されたことを機に、近畿地方環境事務所と共催で、「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」として、バージョンアップすることとなり、2回目となる今年度は、9月30日(土)に実施しました。

ボランティア募集には、地元の三重県や奈良県をはじめ、大阪府、京都府、和歌山県、遠くは静岡県や徳島県から総勢27名の有志が現地に集結しました。

当日は、曇り空の中、強風が吹き付け、気温9℃と思わず足踏みをせずにはいられない寒さに襲われました。



冷たい強風の中での開会式



森林再生応援団結団の記念撮影

しかし、記念撮影を終え、「正木ヶ原」を目指して林内を1時間ほど歩いていると徐々に日が差し始め、爽やかな秋晴れとなりました。

正木ヶ原で、早めの昼食を取りながら、地域統括森林官と自然保護官の二人から、林野庁と環境省が実施している自然再生の取組の説明を受け、8班に分かれて、ネット巻きとササの刈り払い作業を開始しました。



「正木ヶ原」を目指して1時間



説明を行う自然保護官と地域統括森林官



ネット巻きの実演



ネットを黙々と巻く参加者の皆さん

遊歩道周辺でのネット巻き、稚樹の周りのササの刈り払い作業でしたので、登山者の皆さんから「お疲れさまです、頑張ってください」との応援をしてもらいながら、約1時間、額に汗を浮かべながら黙々と作業を行い、無事作業が完了しました。

皆さんの頑張りのご褒美に、澄み渡る青空の中、青い太平洋に浮かぶ島々が、感動を与えてくれました。

大台ヶ原の最高峰「日出が岳」と太平洋が見えるテラスで、三重県の宮川森林組合の森氏から、水質日本一の宮川の清流は、大杉谷の森林が育てていることやそれを守り未来に繋げていくことの大切さについてのお話を伺いました。最後に、大杉谷、太平洋をバックに2度目の記念撮影を行いました。

参加者の皆さんからは、「若い人達にももっと参加してもらいたい」、「今度、孫を誘ってきたい」、「来年もぜひ参加したい」などなど多くの感動の声を頂きました。

このように「大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団」は、皆さんに多くの感動を与え、きっと満足してもらえる活動ですので、ぜひ、皆さんも来年は参加してください。お待ちしております！



正木峠に向かう遊歩道から見た太平洋



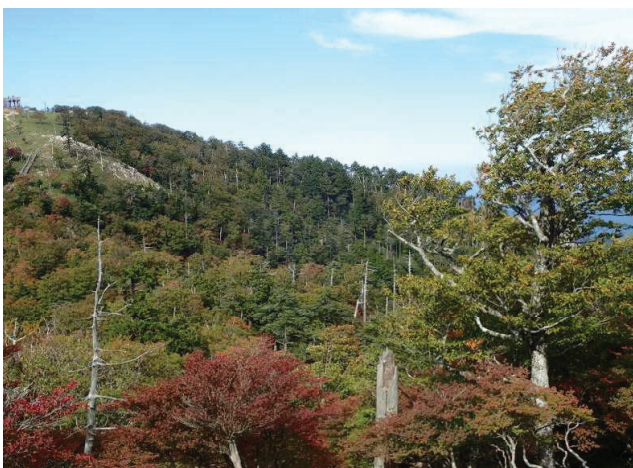
トウヒの稚樹等を守るパッチディフェンス



大杉谷国有林の向こうに紀北町が見える



奈良県側の山並み



左端に日出が岳の展望台が見える



森氏による大杉谷の魅力の説明



テラスで2度目の記念撮影



秋の爽やかな風の中での閉会式